



150th Anniversary PORT OF KOBE 撮影者：田名部 有希氏



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通1丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
題字 岸谷 義雄

危険物
決めろ無事故の
ストライク

新年あけましておめでとう
ございます。
平成二九年の輝かしい新春
を迎え、消防団員、消防職員
並びにご家族の皆様にご挨拶
新年のお慶びを申し上げます。
皆様方には、消防防災の最
前線に立ち、あらゆる災害か
ら地域の安全・安心を守るた
め、日夜消防・防災活動にご
精励いただいておりますこと
に、心から敬意を表し、深く
感謝申し上げます。また、平
素は当協会の運営や活動に対
し、格別のご理解とご協力を

賜りまして厚くお礼申し上げ
ます。
さて、昨年は、熊本地震や
鳥取県中部地震、福島県沖地
震が発生し、さらに台風が北
海道や東北地方にも大きな被
害をもたらしました。また、
これまで経験したことのない
集中豪雨や竜巻が発生するな
ど自然災害は激甚化する一方
となつております。そして、火
災事故の発生は減少傾向にあ
るものの、昨年末には糸魚川
市で強風下の中、延焼面積が
約四万平方メートルに及ぶ大

規模火災が発生し、改めて火
災事故の恐ろしさを痛感しま
した。
今や、いつどこでどのよう
な災害が起きてもおかしくな
い状況の中、消防団は、様々
な災害に対処する地域防災力
の中核的な存在として、欠く
ことができません。消防団の
担う役割は年々多様化し、地
域住民の方々の消防団に寄せ
る期待は大きくなつています。
皆様方には、防災意識の高
揚と物心両面の準備に努めら
れ、今後とも地域住民の生命

身体、財産を守るといふ消防
の崇高な使命を達成するため
なお一層職務にご精励いた
きますようお願い申し上げます。
当協会といたしましても、
消防団の活性化を図り、社会
環境の変化に即した消防団の
充実強化に努めてまいりたい
と考えておりますので、皆様
方におかれましては、なお一
層のご理解とご協力を賜りま
すようお願い申し上げます。
結びに、今年一年が災害の
ない平穏な年であることを祈
願し、県下の消防団員、消防
職員の皆様のご活躍、ご健勝
をお祈り申し上げます。新年
のご挨拶とさせていただきます。

新年のあいさつ

公益財団法人 兵庫県消防協会
会長 岸谷 義雄



新年あけましておめでとう
ございます。
近年の世界協調の流れが、
今年、大きく変わる可能性が
あります。特にアメリカの新
体制の動きやイギリスのEU
離脱交渉、原油等資源価格の
動向、これらに伴う為替の不
安定化などが懸念されます。
先行きの不透明感が高まる中、
いかなる情勢の変化にも対応
できるよう、足元を固めなけ
ればなりません。
国内では、少子高齢化に対
応した社会システムの構築が
待ったなしの課題です。日本

全体の活力を低下させる東京
一極集中にも歯止めをかける
必要があります。
人口が減少し、少子高齢化
が進もうとも、安定し、活力
を保ち続ける地域を創ってい
かなければなりません。地域
創生の取組を軌道に乗せてい
くことが今年の県政の大きな
課題です。
第一は、安全安心の確保。
福祉、医療の更なる充実によ
り、二〇二五年問題に挑み、
安心して暮らし続けられる地
域を創りましょう。防災・減

災対策を着実に推進し、来る
べき災害への備えに万全を期
しましょう。
第二は、県民の活躍促進。
高齢者、障害者、女性、若者
などすべての県民が能力を発
揮できる環境を整えることも
に、教育の質を高め、ふるさ
と人材の確保を進めましょう。
第三は、産業の活力増進。
更なる企業集積に取り組み、
新事業展開や起業を後押しし
ましょう。また、農林水産業
を成長産業と位置づけ、イノ
ベーションを興しましょう。
第四は、交流の拡大。交流

人口の増加で地域に賑わいを
生み出しましょう。兵庫五国
の多様な資源に磨きをかけ、
国内外から人が集う地域を創
りましょう。
一八六八年の兵庫県発足か
ら一五〇年の節目の年が近づ
いてきました。
今こそ、これまでの兵庫の
歩みを振り返り、次の一步の
足がかりとなる新たなビジョ
ンを描くときです。そして、
県民の皆さんの夢と地域への
思いを結集し、兵庫の未来を
切り拓く。さあ、新しい地域
づくりのステージへ、ともに
一步を踏み出しましょう。
ふるさとの 発展めざす
一人ひとりの 地域づくり
決意に依らん

年頭の辞

消防庁長官

青木 信之



平成二十九年の新春を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

地域の安心・安全を守るため、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などに御尽力いただいている全国の消防関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、四月に発生した熊本地震では、観測史上初となる震度七の地震が二度発生し、熊本県を中心とした広い範囲で建物倒壊や土砂災害が多数発生し、多くの尊い人命と財産が失われました。

また、八月には、一連の台風等による大雨被害が各地で発生し、特に台風第一〇号の影響に伴う大雨により岩手県や北海道などの各地で河川が氾濫し、多くの人的被害や住家被害が発生しました。これらの災害現場では、被災地の消防本部や地元消防団のほかに、県内消防応援隊や緊急消防援助隊が総力を挙げて消火、救急・救助活動、捜索活動等に従事し、多くの人命を救助していただきました。ここに、改めて皆さんの御活躍に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

今後発生が危惧される南海トラフ地震等の大規模災害に備え、消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化はもとより、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の更なる充実強化、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の整備など、消防防災行政の一層の推進に取り組んでまいります。あわせて、二〇二〇年開催予定の東京オリンピック・パラリンピック競技大会等、国家的な大規模イベント開催時

における危機管理体制の強化や外国人来訪者への対応等の安心・安全対策につきましても、計画的に推進してまいります。また、東日本大震災や熊本地震等の被災地では、依然として厳しい状況の中で消防防災活動を強いられる消防本部もあります。被災地における消防防災体制の充実強化につきましても引き続き推進してまいります。皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のますますの御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

変化の時代の日本消防

—新春ごあいさつ—

公益財団法人 日本消防協会

会長 秋本 敏文



謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、日夜、地域の安全のためご尽力頂いている兵庫県内の消防関係の方々に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、消防をとりまく諸情勢は、このところ大きく変化していると思われまます。昨年は熊本地震、鳥取地震など思

いがけない地震がありました。これまでと異なるコースの台風や局地的な豪雨もあり、大きな被害が発生しています。地球温暖化が問題にされてい

ますが、やっぱり災害の様子が変わっていると考えざるを得ないのでしょうか。インフラ施設の老朽化による思いがけない事故もあります。消防関係者としては、「いつでも、どこでも、何でもある」位の覚悟をせざるを得ないように思われます。

また、消防活動も変化しています。火災発生件数こそ減少していますが、林野火災などを含めて火災関係の活動はこれからも重要です。特に増加しているのは、救急、救助

です。高齢化、交通事故、インフラ施設の老朽化などさまざまな事情でこの分野の出場件数が増加しています。これは世界共通の傾向です。一方、社会も大きく変化し、人口減少、少子高齢化、被雇用者の増加、コミュニケーションの希薄化等が進んでいます。これらは、消防団員の確保を一層困難にする等の影響があります。こうしたことも背景に、東日本大震災などの体験から新しい法律が制定され、地域にあつては消防団が中心

公益財団法人 兵庫県消防協会

平成二十九年元旦

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

総 裁	井戸 敏三
副総裁	金澤 和夫
会 長	岸谷 義雄
副会長	濱寄 爲司
荒木 一聡	
大久保 博章	
島田 幸司	
安達 哲哉	
富田 重二	
中西 君一	
松田 芳夫	
西岡 安雄	
北山 正	
魚住 幸市	

平成二八年 秋の叙勲(消防関係)伝達式が挙行



受章者の皆様

平成二八年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六〇二名、うち兵庫県では、元消防団員・吏員一七名が叙勲の栄に浴されました。

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発展に寄与した消防関係の方々です。

叙勲の伝達式は、平成二八年一月一四日(月)にニッショーホールで盛大に挙行され、富樫総務大臣政務官から各代表者に叙勲が伝達されました。

《全国消防関係受章者数》

瑞宝小綬章	二〇名
旭日双光章	三名
瑞宝双光章	七一名
瑞宝单光章	五〇八名
計	六〇二名



〈兵庫県下受章者(消防功労)〉

◎瑞宝小綬章

元加古川市
消防正監 松尾 俊明



◎瑞宝双光章

元朝来市消防団
団 長 石原 武士



元加古川市消防団
団 長 一井 三好



元神戸市灘消防団
団 長 伊藤 眞彦



元たつの市消防団
団 長 田中 旭



◎瑞宝单光章

元高砂市消防団
分団長 石田 常雄



元姫路市家島町消防団
団 長 上西 一夫



元淡路市消防団
副団長 沖 政治



元赤穂市消防団
分団長 香川 信博



元姫路市網干消防団
分団長 肥塚 勝弘



元香美町消防団
副団長 小谷 好男



元尼崎市消防団
分団長 島村 建一



元神戸市東灘消防団
副団長 末吉 隆男



元朝来市消防団
副団長 中村 八郎



元明石市消防団
副団長 藤田 光男



元相生市消防団
団 長 松原 季則



元川西市消防団
分団長 守本 國男



第27回危険業務従事者叙勲が 平成28年11月3日に発令



代表謝辞・佐藤様



受章者の皆様

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。受章者は、全国で瑞宝双光章三〇〇名、瑞宝単光章三四六名、計六四六名、うち兵庫県関係では、二二名の消防職員が受章されました。

叙勲の伝達式は、平成二八年一月九日(水)、一月一〇日(木)の二回に分けて総務省講堂で盛大に挙行され(兵庫県は一月一〇日)、高市総務大臣から各代表者に叙勲が伝達されました。

兵庫県下受章者(消防関係)

◎瑞宝双光章

元三田市

消防監 今西 竹夫



元神戸市

消防正監 小野 兼昭



元伊丹市

消防監 近藤 雅範



元神戸市

消防正監 佐藤 正美



元神戸市

消防正監 瀬戸 利夫



元北はりま消防組合

消防監 高井 明



元尼崎市

消防監 中田 賢



元神戸市

消防正監 中谷 範之



元加古川市

消防司令長 新田 芳信



元神戸市

消防正監 藤井 章三



元神戸市

消防正監 別府 美芳



元川西市

消防司令長 前川 秀行



◎瑞宝単光章

元美方郡広域事務組合

消防司令長 伊賀 文雄



元伊丹市

消防司令長 石田 正基



元姫路市

消防司令長 牛尾 虎一



元西宮市

消防司令 樽谷 昇一



元三木市

消防司令 長池 勝年



元明石市

消防司令 野口多喜三



元姫路市

消防司令長 福永 昌弘



元宝塚市

消防司令長 森 実



元淡路広域消防事務組合

消防司令長 湯谷 広



元六粟市

消防司令 山本 忠相



平成28年度秋の褒章伝達式

～平成28年秋の褒章が11月3日に発令～



姫路市香寺町消防団
団 長 久斗 讓二



◎藍綬褒章
神戸市兵庫消防団
団 長 大崎 文雄

《兵庫県下受章者(消防功労)》

消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく与えられる藍綬褒章は全国で九三名、うち兵庫県では神戸市兵庫消防団の大崎団長、姫路市香寺町消防団の久斗団長が受章の榮譽に輝きました。
伝達式は平成二八年十一月五日(火)にスクワール廻町において行われ、島田総務大臣政務官から代表者に章記及び褒章が伝達されました。



県では本年度、自衛消防隊を有する企業等に地域の消防活動を担ってもらう企業連携消防団モデル事業を実施していましたが、このたび三田市において初めて導入されることとなり、発足式が平成二八年一月二日(水)に実施されました。

発足式には、森三田市長をはじめ、竹花三田市消防団長、平阪三田市消防長、株式会社モリタ役員、大久保兵庫県防災監らが出席し、竹花団長より、辞令が交付されました。
三田市企業連携消防団の株式会社モリタ社員の中から



企業連携消防団、発足!

兵庫県



ら、三田市在住の五名のうち、一名を班長、四名を機能別団員として消防団長が任命し、就業時間内午前九時から午後五時までにテクノパーク管内で発生した災害に対して、消防団長が必要と判断した災害等に出動する。

「平成二八年版
消防白書」
の公表
消防庁

この度、消防庁において、消防白書が公表されました。
消防白書は、国民の生命、身体及び財産を災害等から守る消防防災活動について紹介しているもので、毎年刊行されています。

平成二八年版消防白書では、次の五つの特集が掲載されています。
一 熊本地震の被害と対応
二 平成二八年八月の台風等の被害と対応
三 消防団を中核とした地域防災力の充実強化
四 消防における女性消防吏員の活躍推進
五 伊勢志摩サミットにおける消防特別警戒の実施

消防白書は、消防庁のホームページに掲載されており、ぜひご覧ください。

消防庁ホームページ
(消防白書掲載ページ)
<http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h28/h28/index.html>



『太子町女性機能別 団員が誕生』

太子町消防団

聖徳太子ゆかりの歴史と伝統を培う太子町は、兵庫県の南西部、播州平野が広がる西播磨の一角にあり、東部及び南部は姫路市と北部及び西部はたつの市とそれぞれ接しています。

太子町消防団の歴史は、昭和九年、旧町村単位での消防組の結成に始まり、昭和二十六年四月、町村合併により太子町消防団が発足しました。現在は一消防団五三分団、消防ポンプ自動車五台、小型動力付積載車七台、四二二名の団員で組織され、日夜消防団活動に精励しています。

平成二七年度から女性機能別団員（四名）が入団しました。

主に防火広報活動や団員加入促進活動で活躍していますが、女性ならではのきめ細やかな対応で、活動の幅がますます広がっています。

今後も地域の安全安心を守るため、日々の活動を通じて地域住民に信頼される消防団を目指し、消防力の向上に努めます。

〓〓主な活動事例〓〓

▲林野火災訓練▼

春季火災予防運動の一環として、山火事の予防思想の普及を図るとともに、広範囲かつ長時間の活動が懸念される林野火災現場における指揮統制の確立、防衛技術の向上及び災害時の連携強化と消防署、消防団、県消防防災航空隊との協力体制の強化を図ることを目的とし実施しています。



▲消防操法大会▼

消火活動の基礎となる消防操法技術の向上と志気の高揚を図り、有効適切な消防活動を確保することを目的とし、消防人としてより一層の自覚と連携を高めるため、毎年、消防操法大会を実施しています。また、本町独自の消火栓操法も実施しております。



▲水防訓練▼

毎年、町が実施している防災訓練時に消防団員も出動、堤防からの越水を想定し氾濫を防ぐ目的で、改良土の積み込み工法の訓練等を実施しています。



▲消防出初式▼

消防関係団体の士気の高揚と、地域住民への消防理解及び防火意識の向上を図ることを目的とし、年頭に消防出初式を挙行しています。



▲文化財防火訓練▼

文化財防火デーに伴う行事の一環として、文化的建造物を対象とした消火訓練を実施することで、周辺住民の防火意識の向上、消防団員の技術向上を図るとともに、文化財愛護思想の高揚を目的とし実施しています。



▲普通救命講習会▼

消防職員の指導による三時間の普通救命講習会を、毎年実施しています。一次救命処置の手順として、心肺蘇生法とAEDの使用について基本から学び、実りある講習を行っています。



『加東市消防団×(meets) イザ！カエルキャラバン！inかとう』

加東市消防団

加東市は、旧加東郡の社町・滝野町・東条町が平成一八年三月二〇日に合併して誕生した、兵庫県の中央部・播磨地方に位置する人口約四万人のまちです。

合併とともに誕生した加東市消防団は、団長以下、副団長三人、小隊長十二人、団員一、一七〇人により、七五の分団で構成されており、火災発生時の消火はもちろん、水防活動、行方不明者の捜索などをこなすことで、加東市民の生命・財産と安全・安心を最前線で守っています。

しかしながら、近年、少子高齢化や生活環境・ライフスタイルの変化などにより、重要な役割を担うこの消防団員の確保が年々難しくなっています。



このイベントは、参加者が持ち寄った「いらなくなったおもちゃ」をポイントによって交換する「かえっこバザール」と呼ばれるシステムと、防災教育・啓発を子供たちや若い親子を対象に、ゲーム感覚で楽しみながら消火救出、救護などの知識を学べる「防災教育プログラム」とを組み合わせたものです。「防災教育プログラム」を実施することでポイントがたまり、おもちゃと交換できるよ

うにすることで、多くの参加者を募ることができ、子どもや親に積極的に防災に関わっていたり、防犯に積極的に関わっています。持ち寄ったおもちゃの内、より良いおもちゃについては、最後にポイントによるオークションも実施されます。オークションではポイントを多く持っていると有利なため、時間の限り、繰り返しプログラムを体験し、防災の知恵や技をしっかりと身につけることができます。

また、操法大会の「小型ポンプ」と「自動車ポンプ」の各優勝分団を当てるクイズにもポイントを付けることにより、参加者は操法の順位発表がある閉会式まで興味を持って参加いただけるよう工夫しました。

イベントにはこのほかにも、地震の震度を体験できる「起震車」や、集中豪雨等による土砂災害により、家屋、集落が被害を受ける様子を模型で学ぶことができる「土石流実験装置」の実演などを行うと





ともに、加東市が保管しているアルファ化米の試食コーナーも設けました。

更に、このイベントのスタッフを消防団員中心とする事で、消防団をより身近な存在に感じていただけるようになりました。

開催当日は、小さなお子さん連れの家族など、普段操作方法大会を目にする機会のない

方々を含め約八〇〇名の方が来場され、消防団員と直接ふれあう機会を持つことで、一層地域の人々とのコミュニケーションを図ることが出来ました。加えて、市民が地域の消防・防災のことを勉強する機会も持てたことから、有事における市民、消防団、行政が一体となった防災活動の意義づけができたと考えております。

消防団員が全国レベルで減少している中、加東市消防団も同様に新入団員の確保が課題となっております。今回参加いただいたお子さんやご家族のように、消防防災知識を身につ



けてもらおうと同時に、消防団への理解を深めてもらい、将来消防団に入団していただける方が少しでも増えるように今後も工夫をこらしたイベントを開催したいと思っております。

わが町の団長さん

「開かれた消防団」

神戸市灘消防団

白井 幸治



昭和六年に神戸市の行政設置に伴い「灘区」が誕生しました。この地区は、緑豊かな六甲山・摩耶山や都賀川の清流があり、穏やかな瀬戸内海に面した、大変魅力のある住みよいまちです。灘消防団は

昭和二二年に消防団令の制定により灘消防団に改正され、現在は、本団と八分団で団員総数は女性団員二十名を含めて一二九名となっております。白井団長は昭和四二年に灘区の南部を管轄する第七分団に入団され、灘消防団では最古参です。分団役員を経て、平成一六年に副団長、平成二八年には灘消防団第九代団長に就任されました。地域活動などにも率先して取り組み、積極的に地域住民とふれあい、地元の神社の祭礼にも地域伝統文化の発展継承者として、熱心に活躍しておられます。また、団長に就任以来、その

忙しい家業の板金業の傍ら、消防団活動にも誠心誠意取り組まれていきます。常々口癖の様に「自分の時代では、今までと違う消防団を作りたい。そのために団員から信頼感のある『開かれた消防団』を目指す。」と仰っているとおり、幹部会議においては団員のみならず皆さんに意見を求めている姿勢が感じとられます。昨今は、団員確保や自然災害における消防団を取り巻く環境は非常に厳しいものがありますが、灘区民一三万人の安全・安心を確保する使命とともに開かれた消防団をめざす心優しい団長です。

がんばってます、女性消防団員

『予防消防』目標 火災0

豊岡市出石消防団 部長 中村 明子

豊岡市出石消防団では、平成五年北但初の女性消防団が、五名で結成されました。

女性の持つソフト面、優しさを活かし、地域住民に予防消防の重要性、防火意識の向上を図るため、予防啓発を中心に活動しています。春の初午祭、秋のお城まつりでは警備にあたり、秋の火災予防週間には、幼年防火パレードで幼稚園児、消防署員の皆さんとともに町内をパレードして、火災予防を呼び掛けています。また、週二回女性団員によるアナウンスで、火災予防の特別警戒として、出石町全域を巡回広報しています。

地道な活動ですが、結成当初から続けている活動の一つです。このように地域に密着した活動を通して、地域住民の安心、安全な暮らしを守ることに使命感、責任を感じています。



私たちが頑張ってます

任を強く感じ、気を引き締め消防団活動に取り組んでいます。また、各種訓練に加え、救命講習会、技術研修会、女性消防団員活性化全国大会等にも積極的に参加し、他団の女性消防団員との交流、情報収集にも努め、女性消防団員としての意識向上、知識向上、技術の習得に努め、「火災0」を目標に、消防団の任務遂行に努めていきます。



女性消防団員による放水展示

われら 若手消防団員

～消防団活動を通じて～

南あわじ市消防団 北阿万第三分団第一部 林 誠



私は鳥外の大学を卒業後、地元に戻り就職したことを機に消防団に入団しました。地域活動は小学生の時に地元の春祭りに参加した程度で、それ以降は関わる機会もなかったため、生まれ育った地域でありながら知らないことばかりでした。

入団するまでの消防団活動のイメージは、火災時の消火活動と年末夜間警戒、操法大会くらいでした。入団してはじめて、年始の初出式や日頃のポンプ・器具点検、操法大会に向けての訓練、台風などの自然災害に対する対応、地域の方々への防災訓練等々、地域の安全・安心のために、多岐にわたる活動をしていただいていたことを知りました。

入団して三年目の年に、操法大会の選手に選ばれました。初めてで何も分からない私に、同じ分団の先輩方また

地区幹部の方々、夜遅くまで何度も何度も丁寧に動作を教えてくださいました。

操法の練習を通して、消火活動に関する基本的な技能の取得はもちろんのこと、先輩方とのつながりが生まれたことが、地域のことを知る良いきっかけにもなっています。

先輩方の行動・判断は、いつも迅速かつ正確で日々の訓練とこれまでの経験の賜物だと感じています。いつ発生するか分からない火災や自然災害に對して、私も訓練と経験を重ね、微力ながらも地域の安全・安心に貢献できるように頑張りたいと思います。



地域のお知らせ

明石市

「あかし」が新しく生まれ変わります！

明石市の歴史と特徴

明石市は古代明石原人から、万葉の神秘、源氏物語の舞台となっており歴史的にも古く、瀬戸内の温暖な気候に恵まれた土地で、東西に約一六キロに及ぶ風光明媚な海岸線に面しています。

ときのまち

明治一九年より東経一三五度が日本標準時子午線と定められ、線上の明石が「子午線のまち」として定着しました。子午線上の明石市立天文学館には、日本標準時を刻む大時計が設置されています。(この大時計は平成九年に新しく設置された三代目で、平成七年の阪神淡路大震災に被害を受けた二代目の時計は、当時の時刻五時四分で停止、その後神戸学院大学へ移設されています。)

海峡のまち

さらに明石市は、「明石海峡大橋」がかかっている明石海峡が目前にあり、「明石ダコ」「明石鯛」「明石のり」「あなご」と海の幸が豊富です。そして、まちおこし事業として昔から食べていた「明石焼き(地元の名称は、玉子焼き)」を、B-1グランプリに出店し、平成二八年一月に東京で開催された大会では、「あかし玉子焼き」がグ



2016 B-1グランプリで優勝した「あかし玉子焼き」

BRAND-NEW

この歴史のある「明石市」が、さらに魅力を増やすため、明石の玄関口でもある明石駅南側の地域が駅前再開発事業として新しく生まれ変わり、平成二八年一月ランドマークとなる複合ビル(地上三四階地下一階建て)の超高層住宅棟と

地上六階地下二階建ての商業・公共施設棟)が誕生し、施設名は公募により「パピオス明石」(パレス(殿堂)、ピアッツァ(広場)、オアシスを掛け合わせた)に決定しました。



平成28年12月9日オープンの「パピオス明石」

不思議なものに出会えるまち

神崎郡福崎町



七種の滝

七種の滝は、雄滝・雌滝、以下四八滝あるといわれており、県下八景・県観光百選・近畿観光百選に選ばれています。このうち雄滝は、落差七メートル幅三メートルを誇り、雨季など特に水量の多い時期には迫力のある滝を見る事ができます。また、太鼓橋近くにある虹ヶ滝では、運が良ければ虹が出た滝を間近で見ることが出来ます。

つなぎ岩

七種山山頂直下にあるつなぎ岩は、高さ一五メートル、幅五メートルの巨岩で、岩の



笠岩

七種山の山頂付近にある笠岩は、水平に近い破れ目にそって岩盤が浸食されて形作られたものです。あたかも岩盤の上に巨岩が乗っているような姿で、落ちそうで落ちない岩として知られています。



七種山(なぐさやま)について

七種山は、播磨国風土記に「奈具佐山」の名で檜が生える山として書かれています。現在も檜や杉の人工林が整備され、森林浴を満喫することが出来ます。

主に流紋岩類からなる七種山の山内では、つなぎ岩、笠岩等の奇岩や、雄滝をはじめとした七種四八滝が見られることでも知られ、関西百名山やふるさと兵庫五〇山にも選ばれています。また、稜線で繋がっている七種槍、薬師峯と総称して七種三山と呼ばれています。



河童の河太郎と河次郎

福崎町出身の柳田國男の著書「故郷七〇年」に登場する駒ヶ岩の河童のガタ口をモチーフにした河童の兄弟です。弟の河次郎は時間がくると池の中から飛び出します。



編集後記

あけましておめでとうございます。毎日寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。新年を迎え、決意も新たに消防団活動に取り組んでおられることと存じます。

今月号では各団体の代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、五面には昨年三田市で発足した企業連携消防団について掲載しております。ぜひご覧ください。本年も「兵庫消防」のご愛読をよろしくお願いたします。



酉